

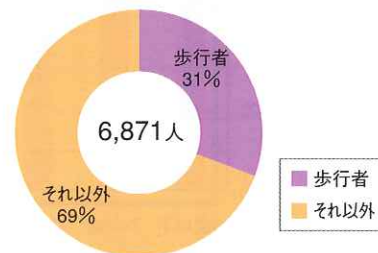
Pedestrian's accident

歩行者の事故

歩行者はなぜ「交通弱者」とよばれるのでしょうか？

平成17年に交通事故で死亡した人は6,871人で、そのうちの約3割にあたる2,104人が歩行者でした(図1)。交通事故における死傷者に占める死者の割合(致死率)は、歩行者が約2.5%と、交通事故全体に比べて4倍以上と非常に高いため、歩行者は「交通弱者」と呼ばれています

図1 平成17年の交通事故死者数



歩行中に交通事故にあうのはどのような人でしょうか？

歩行中に交通事故で亡くなった人(平成15年2,332人)について分析したところ、その約64%(1,487人)が65歳以上の高齢者でした(図2)。一方、歩行中に交通事故でケガをした85,592人に注目すると、その約1/4(20,479人)が15歳以下の子どもでした(図3)。このことから「高齢者と子ども」は歩行中に事故にしやすい年齢層であると言えるでしょう。

図2 平成15年の歩行中の死者

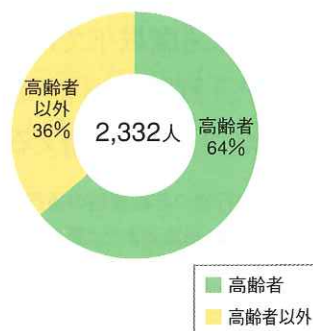
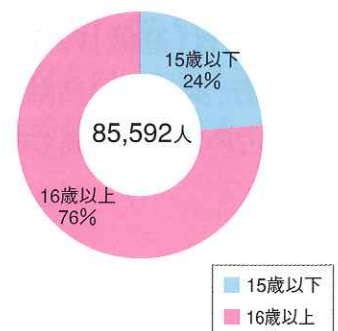


図3 平成15年の交通事故負傷者数



財団法人交通事故総合分析センターは、交通事故と「人間」「道路」「車両」について、科学的・総合的な調査・分析や研究をおこなって交通事故の防止と被害の軽減を図り、快適な道路交通環境の実現に寄与することを目的に設立されました。

つくば市には交通事故総合分析センターの「交通事故調査事務所」があります。ここでは、実際の事故現場で事故の状況を調査していますが、この事故調査は交通事故の低減を目的とした調査・研究のためのもので、警察の捜査や保険会社の調査とは全く別のものです。

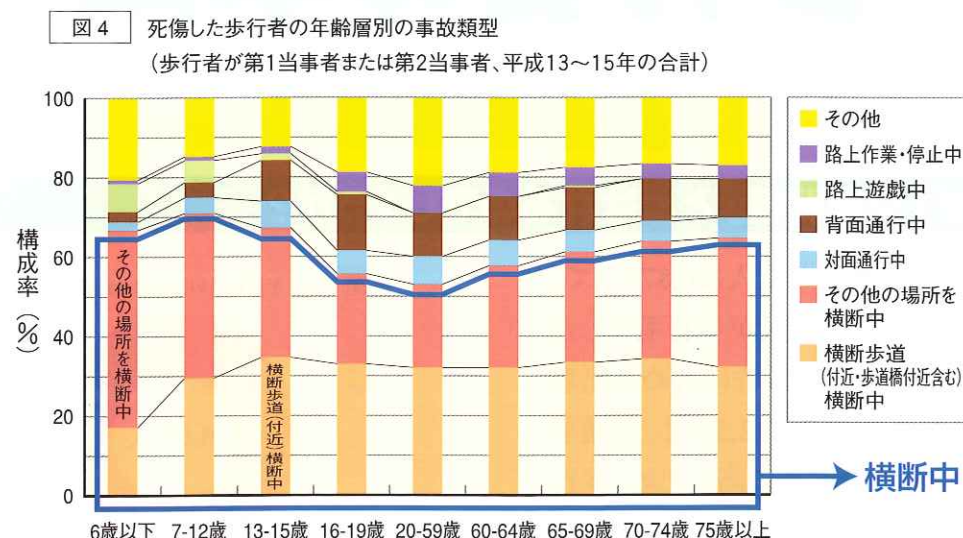


調査中の事故調査員

私たちは、つくば市を中心とした茨城県内の
交通事故調査を行っています。

高齢者と子どもは道路横断中の事故が多い

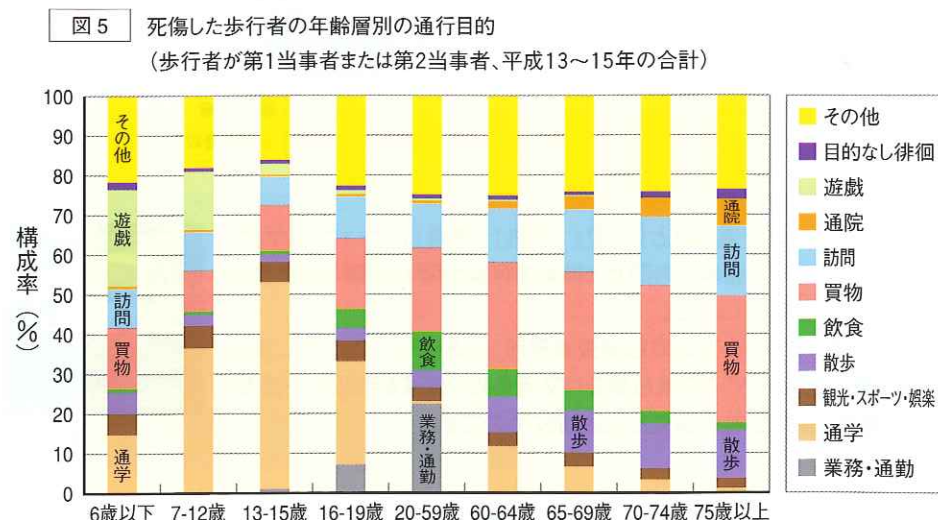
歩行中に事故にあって負傷したり、死亡した人を年齢層別にして、事故類型をみてみました(図4)。全体的に「横断中」の占める割合が高いことがお分かりになると思います。特に、子どもと高齢者で「横断中」の占める割合が高くなっています。



子どもは「通学」や「遊戯」中に、高齢者は「買い物」や「訪問」時の事故が多い

死傷した歩行者の年齢層別の通行目的(図5)をみてみました。19歳以下の年齢層では「通学」の占める割合が高く、特に13～15歳の中学生年齢では過半数を占めています。また、12歳以下の子どもでは「遊戯」の割合も高く、特に6歳以下では25%を超えています。

一方、歩行者が高齢であるほど、「買い物」や「訪問」、「散歩」の占める割合が高くなっています。全体に占める割合は高くありませんが、「通院」も増える傾向にあります。



子どもや高齢者が、事故にしやすい時間帯がある

事故が多いのは、子どもの場合は「遊戯」や「通学」の最中に、また、高齢者の場合は「買物」や「訪問」の最中であることが分かりました。そこで、これらの通行目的での事故が何時に多く発生しているのかをみてみました。

「遊戯」中の事故は、6歳以下、7～12歳ともに、16～17時台の夕方に集中しています(図6-1)。

一方、「通学」中の事故は、朝のピークが7～8時台の登校時に、また午後のピークは7～12歳の小学生年齢で15時台に、13～19歳の中・高校生年齢では17時台の下校時にあります(図6-2)。どの年齢層でも、登校時間帯の方が事故が多くなっています。

図6-1 通行目的が「遊戯」の場合

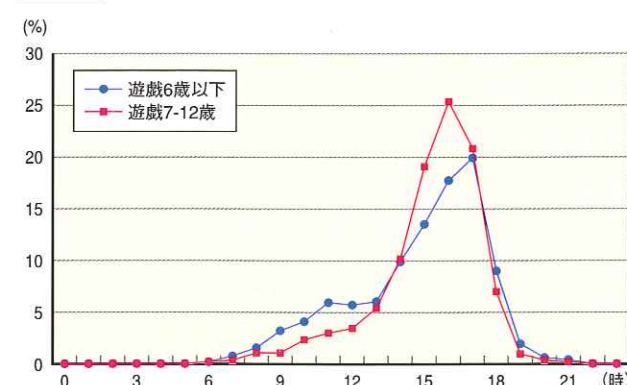


図6-2 通行目的が「通学」の場合

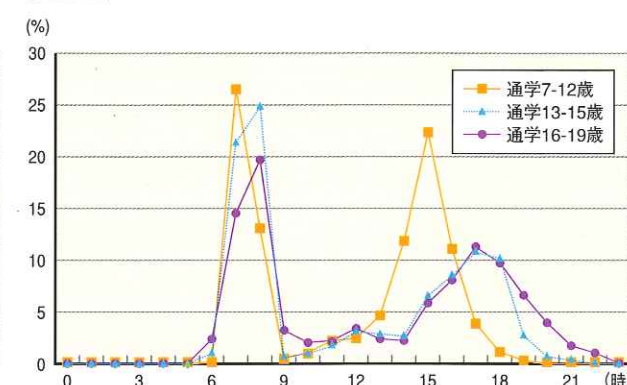


図6-3は「買物」中の事故の発生時間帯を示しています。この場合、高齢者層のどの年齢層でも朝の10～11時台と午後の17～18時台にピークがあります。図6-4の「訪問」では、やはりどの年齢層でも朝の9～10時台と夕方17～18時台にピークがあります。午後17～18時台は、夕方のいわゆる薄暮と呼ばれる『ドライバーが歩行者を発見しづらくなる』時間帯で、ちょうど、その時間帯に事故にあっている様子がうかがえます。

図6-3 通行目的が「買物」の場合

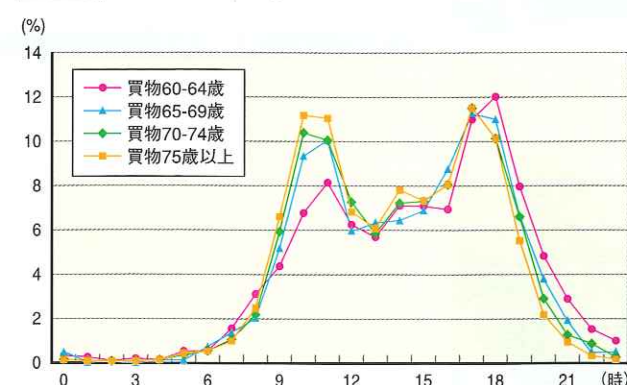
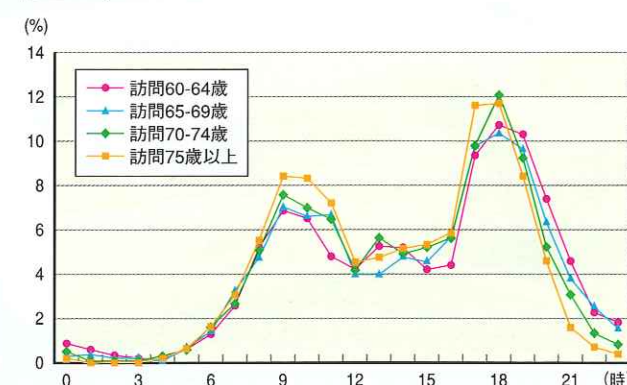


図6-4 通行目的が「訪問」の場合



交通事故調査へのご協力をお願いいたします。

歩行者や運転者として注意すべきことについてまとめます。

☆歩行者の皆さんへ ～ 夜間には反射材を身につけましょう

朝、子どもの登校時間と重なる時間帯は、子ども・運転者ともに時間に追われて注意が散漫になりがちです。また、季節によっては朝日がまぶしくて歩行者を発見しにくいといった危険要素がひそんでいますので十分な注意が必要です。

薄暗くなりかけた夕方の時間帯も危険な時間帯です。歩行者の「運転者が自分の存在に気づいているはず」という思いこみは大変危険です。夕方など薄暗い時間帯から夜にかけて外出する時は、視認性の高い色の衣服を身につけたり、反射材のついた靴やコート等を活用するなど、自ら防衛することが望まれます。

☆運転者の皆さんへ ～ 子どもを見たら速度をさげましょう

運転者は、予期しない時・場所で急に子どもが横断し始める可能性があることを意識する必要があります。子どもがいたら、完全に危険でなくなるまで、いつでも停止できるような速度で走行すべきでしょう。

☆保護者の皆さんへ ～ 子どもに飛び出しをさせないようにしましょう

保護者は、子どもが小さいうちは手をつないだり抱きかかえるなどの方法で道路に飛び出させないように気をつけましょう。手をつないで歩く場合でも、子どもは車道側を歩かせないようにしましょう。

☆大人の皆さんへ ～ 子どもに安全な横断をさせましょう

子どもが横断施設のない場所を横断しようとしているのをみたら、保護者以外の大人でも注意することが必要です。子どもだけで外出できるようになるまで、そしてそうなった後も道路横断の安全な方法について繰り返し家庭と学校で教える必要があります。具体的には、「道路を横断しようとするときは一度立ち止まり、耳と目で周囲の状況を確認してから横断する」という習慣をつけさせましょう。



交通事故総合分析センターの調査車両は緊急自動車に指定されています。

交通事故総合分析センター

財団法人 交通事故総合分析センターは、平成4年(1992年)に警察庁、運輸省(当時)、建設省(当時)からの設立許可を受け設立された日本で唯一、国家公安委員会の指定をうけた交通事故低減のための調査・分析を行っている機関です。

お問合せ先

(財)交通事故総合分析センター

ホームページ <http://www.itarda.or.jp>
Eメール koho@itarda.or.jp

つくば交通事故調査事務所

〒305-0831 茨城県つくば市西大橋字大窪647
TEL029-855-9021 FAX029-855-9131

事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町6-6 麹町東急ビル5階
TEL03-3515-2525 FAX03-3515-2519